

〈10〉妊娠により増大する皮膚腫瘍の病態について

神田 奈緒子

帝京大学医学部附属病院皮膚科

ヒトメラノーマの *in vitro* での増殖に対する 17β -エストラジオール、プロゲステロン、ジヒドロテストステロンの作用を検討した。各性ホルモンはいずれもそのレセプター陽性のメラノーマの 3H-チミジンの取り込みを抑制したが、レセプター陰性のメラノーマに対しては増殖抑制作用を示さなかった。各性ホルモンの増殖抑制作用はメラノーマの成長因子であるインターロイキン8 (IL-8) の付加により解除された。各性ホルモンは、そのレセプター陽性のメラノーマにおいてのみ、IL-8の産生を蛋白質、mRNA およびプロモーター活性のレベルで抑制し、IL-8プロモーター上の -98 ~ -63bp の領域が転写抑制に関与していた。各性ホルモンレセプター陰性のメラノーマに当該レセプターをトランスフェクトすることにより、目標とする性ホルモンによる IL-8の産生抑制作用を誘導することが可能であった。以上の結果から各性ホルモンはヒトメラノーマにおいて、レセプター依存性に IL-8の産生を抑制することにより、その増殖を抑制することが明らかになり、メラノーマの治療において性ホルモンが有効であることが示唆された。本研究の論文は現在投稿中である。血管拡張性肉芽腫の発症における各性ホルモンの役割については、皮膚毛細血管内皮細胞を対象とした *in vitro* の実験系を用いて検討中である。